

理事に就任して

中央開発（株） 東北支店長
三浦 正人



はじめに

平成30年4月から、鈴木益夫の後任として宮城県理事に就任いたしました中央開発株式会社東北支店の三浦です。

平成29年4月に北海道から単身赴任で東北支店への転勤となりました。

東北での勤務は初めてのため、まだわからない部分も多々ありますが、東日本大震災から7年以上経った今も被災地では復興に向けた多くの課題があると感じております。

このような中で、東北地質調査業協会の理事の一員として自分に何が出来るかをよく考えて、微力ではありますが地域および地質調査業界の発展に向けて貢献できるように努力していきたいと思っております。何卒よろしく願いいたします。

自己紹介

生まれも育ちも北海道で、ほかの地域で生活するのは今回が初めてとなります。

生まれたのは北海道東部の十勝地方で、そこは、松山千春の歌の「大空と大地の中で」にあるとおりの大平原が広がる地域で、小学一年までそこで育ちました。その後は高校まで釧路市で過ごし、高校卒業後、土木の道をめざし札幌の大学へ進学しました。

大学を卒業後、昭和62年に中央開発株式会社へ就職しました。入社当初は設計を行い、主に下水道設計を担当していました。当時は今のようにCADも無く、ドラフターで図面を書く時代でした。当時の上司から教わったのは、現地の確認を十分に行うことであり、机上の検討だけでなく現地確認に時間をかけて検討を行うことにより細かな修正点が確認出来

ることがわかりました。新入社員としては、経験豊富な技術者から基本を教わる機会が得られ、いろいろな発見が出来ることに新鮮味があり、仕事の面白みを感じられたことが思い出されます。

その後、地質調査を担当するようになり多くの業務を担当しました。少人数の支店であったため、小さな調査業務や、高速道路の一次調査から詳細調査まで、海上ボーリング、ダム地質調査などの様々な業務を経験しました。

ダムの現場では、今で言う高品質ボーリングの一つである気泡ボーリングを経験し、ボーリング技術についての勉強をする機会もありました。その現場は北海道の内陸部で、一年を通して現場が継続し、12月から2月までの厳寒期も現地作業が行われました。東北も冬期の現場は厳しいですが、北海道の内陸部では朝晩は気温がマイナス20℃を下回ることもあり、非常に大変な現場であったことが印象に残っています。あまりの寒さのため、朝にトラックのディーゼルエンジンがかからず、ボーリング班が宿舎から現場へ向かうことが出来なくなり、その日の作業を中止することもありました。

技術職を14年ほど経験した後、平成13年からは業務管理や営業職に就くことになりました。営業に関しては、これまでやってきたことと違う内容も多々あり、最初は非常に苦労しました。若いころは、初めて行う仕事に関しても面白みを感じることもあり、比較的スムーズに対応することができたと思います。しかし、年齢とともに柔軟性もなくなり、今思えばこうしていればもっとうまくいったのではと反省することが多くあります。

現在、組織全体を管理していかなければいけない立場となっていますが、これらのいろいろな経験をしてきたことは非常に有意義なものであったと思っています。

東北について

北海道も非常に広い地域であったが、東北も同じく非常に広く、自然豊かな土地であります。また、各県とも有名なお祭りや郷土料理なども豊富で非常に魅力的に感じています。地酒の種類も多く、また、非常においしいものが多いと思います。特に日本酒好きというわけではありませんでしたが、種類によっていろいろな味の違いが何となく判ってきて、飲み比べる面白さもあると思います。

仕事をする上では、営業エリアが広いことや冬期の積雪など、いろいろな意味で大変であると感じています。特に、震災復興に貢献するという非常に重要な任務を遂行していかなければいけないと思っています。また、少子高齢化、人口減少の時代を迎えるにあたり、地方ではこの問題に対してどう対応をするのかを真剣に考えなければいけないところに来ています。インフラ整備においても作る時代から維持管理の時代へ移行したことに対して技術対応できるよう、まだまだ勉強することが多々あると感じているところです。

近年の自然災害について

日本は、もともと自然災害を受けやすい環境にあることは判ってはいるものの、それにしても近年は、地震災害、水害など毎年大きな災害が発生しています。それも、これまで想定されてきた規模を大きく超える災害です。

また、災害が発生する地域もこれまで起きていない地域での災害も発生しています。

公共事業関連に携わる者としては、これまでは治水整備、流通の整備や農地整備、エネルギー関連などの経済の発展に寄与するインフラ整備を多く行ってきましたが、今後は人命に直結する国土強靱化による安全・安心な国土づくりに貢献していきたいと思っています。

地質調査業の課題

地質調査業は、一般の方には知名度が低く地味な業界ではあるが、仕事の内容は人々の安全に対して非常に重要な仕事であります。ただ、残念なことにそのことを十分に理解されていないケースもあり、調査不足により施工時に設計変更を行わなければいけないことや補修・修繕を行わなければならないことも多々あります。地質調査業に携わる者として、地質リスクとして調査の重要性をアピールしているところであり、これを継続していくことが重要であると考えます。これには、地質技術者をもっと活用していただき、技術者の地位の向上が望まれます。防災点検などにおいても地質技術者の目が必要であり、地質調査業を有効に活用することが安全・安心につながると思います。

もう一つの課題として若い方々には土木離れが進んでおり、ボーリングオペレータ不足も懸念されます。そのような中で、東北地質調査業協会では、ボーリングマスター制度が行われており、ボーリングの魅力向上にとって非常に良い試みだと思っています。

これは、若いボーリング機長にとっての目標となるものであり、また、品質の向上にもつながっていくものではと考えます。

おわりに

現在、働きかた改革法案の成立などにより、これから仕事の仕方も変えていかなければいけない時代となりました。それには仕事を行う上での効率化や管理・運営について工夫が必要となります。その一方で、品質の確保・向上も同時に行っていくことが必要と思います。時代の流れに対応できるよう、業界全体が創意工夫して発展していかなければいけないと考えます。

協会活動を通じて、これからの地質調査業の発展に貢献できるよう努力していきたいと思っていますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。